

ソーシャル・キャピタルと主観的健康感との関連の実証分析

福島 慎太郎

キーワード：豊かさ、ソーシャル・キャピタル、主観的健康感

1. 背景と目的

経済的豊かさや物質的豊かさは、人間の幸福に寄与する唯一の豊かさではないことが、多くの国々から発せられている。このような中、一定の経済的豊かさを達成した後は、絶対的な所得ではなく、周囲の他者との比較による相対的な所得が幸福感や健康に意味をもつことが指摘されている。本研究では、個人とそれを取り巻く環境との間に保持される豊かさの中でも、他者との間に保持される人間関係を通じた豊かさに着目した。そして、性質の異なる様々な形態の人間のつながりが人々の主観的健康感に対してどのような関連をもっているかを分析することを通して、幸福感や健康の観点から見て望ましい社会の構築像を描く。

2. ソーシャル・キャピタル

人々の健康や幸福感に対して、人間のつながりがもつ関連性や影響にまつわる研究は多様であるが、その中でも「ソーシャル・キャピタル」に着目した。本研究では、ソーシャル・キャピタルを「人間のつながりにかかわる要素のうち、信頼・規範・ネットワークの3要素に着目したもの」として定義し、この3要素、さらには各々の要素における性質の異なるつながりを区別して分析を行った。

3. 対象地域と研究手法

本研究の対象地域は、京都府北部に位置する3市のほぼ全域の農村地域とし、アンケート調査を行った。調査票の回収数は12,378票、回収率は30.9%であった。分析手法として、説明変数同士の相互の影響を考慮することのできる統計処理手法である、ロジスティック回帰分析を用いた。そして、主観的健康感の項目において肯定的な回答をした人の、説明変数の変化に応じた割合を表わすオッズ比を算出した。

4. 分析結果

分析結果を表-1に示す。地域内住民に対する信頼と地域内住民との間に保持された人間関係の信頼が、健康と密接に関わっている一方で、一般的信頼は主観的健康感と関連を有していなかった。そして、地域内住民間に保持される信頼は、地域内の他者とのネットワークと密接に関わり合っていることが確認された。また、地域内の相互扶助に基づく規範や地域内の罰則を伴う規則によって形成される人間のつながりに関しては、主観的健康感とは正にも負にも関連を示さなかった。

表-1 主観的健康感に対する要素・性質の異なるソーシャル・キャピタルのオッズ比

質問項目	オッズ比の算出に用いた回答項目	オッズ比	(p値)
一般信頼	《ほとんどすべての人 / 誰もいない》	0.921	(0.583)
地域内住民に対する信頼	《ほとんどすべての人 / 誰もいない》	2.890	(0.000)
地域内の人間関係的信頼	《いる / いない》	1.515	(0.002)
地域内の規範	《有 / 無》	1.062	(0.630)
地域内の罰則	《有 / 無》	1.019	(0.876)
地域内ネットワーク (頻度)	《ほぼ毎日 / 月1回以下》	1.322	(0.273)
地域内ネットワーク (数)	《ほぼすべての人 / ごく少数の人》	1.102	(0.380)

5. 結論

人々の健康や幸福感の増大に寄与する社会を形成するためには、経済的な発展を保持しつつも、地域内住民との全人的な関わりの機会を増やし、住民間に保持される親密な信頼を基盤とした人間関係を構築していくことが必要である。また、個人の自由を縛る地域内に閉じられた規範や規則を通じたつながりを、単純に開いたつながりへと移行させることは必ずしも好ましくない。今後、人間のつながりが有する良い面悪い面をより詳細に捉えることを通して、地域の発展をより具体的な実践へとつなげていくことが必要である。